

京都大原学院
令和5年度 学校教育目標・経営方針

1. 学校教育目標

「大原のゆとりある心を 自信をもって伝えられる子に!」

2. 目指す子ども像

＊ 思いやりをもち、自ら汗のかける子の育成

- ① 自分と他者の相互の人権を尊重する
- ② 人生の課題を自分で解決できる姿勢と力を身につける
- ③ 自分の意志で行動・発信する

＊ 科学的思考のできる子の育成

- ④ 「学力」(＝「生きていくための知識と技能」)を身につける
- ⑤ 根拠と見通しを持って計画的に行動する
- ⑥ 信頼できる知識や情報を収集し、有効に活用する

＊ コミュニケーション力を発揮できる子の育成

- ⑦ ルールを踏まえて建設的に主張する
- ⑧ 意見の対立や理解の相違を解決する
- ⑨ 目標を達成するために他者と協働する

3. 学校経営方針

おおらかでこまやかな教育実践の豊かな展開

—小中一貫教育、小規模校、コミュニティ・スクールの強みを最大限に活かした教育実践を進める—

1) 課題に^{かつたつ}関連に挑む。(①②③④⑤⑧⑨)

今ある子どもたちの姿をまずそのまま受けとめ、柔軟な視点に立ち、事実即して一人一人の子に必要な手立てを工夫する。その克服のために、教職員の知恵を集め、保護者のみなさんと協力して、必要な手立てを考え、解決していく。

2) 「楽しい授業」を追求する。(④⑤⑥)

少人数、落ち着いた状況といった小中一貫・小規模校の強みを活かした授業を展開する。
子どもたちの好奇心のアンテナがたくさん立つ、考える楽しさ、分かる楽しさを存分に味わえる学びの時間を創る。

3) 自治活動を通じて、社会制作の力を伸ばす。(⑦⑧⑨)

共同作業やグループ討論、児童生徒会・委員会活動を通して、自分たちの生活を見直し、課題に対して議論を通して解決方法を探り、協力してそれを解決できる力を育てる。

4) 豊かな体験活動で、経験知を厚く、豊かにふくらませる。(②④⑤⑥)

大人になる科の活動を中心に、地域のみなさんの力も結集し、豊かな体験活動を展開し、体験を通して子どもたちに「作業」に宿る「知恵」や「思い」といったものも肌で感じつつ、協働する楽しさと達成感を積み上げる。

5) あらゆる教育活動の場面で、人権尊重の姿勢を育てる。(①)

教育活動のあらゆる場面で、その体験が「互いの人権を尊重する」ということを具体的に理解できる教材や経験になるように、指導を展開する。

6) 教育活動に個の力と組織の力を自在に駆使できる教職員集団づくりをすすめる。

教職員は、日々の教育活動の中での気づきや困りを出し合い、個々の個性と能力、知恵を出しあって解決しながら、子どもたちとの学校生活に喜びを創り出し、生き生きと実践にあたる。あわせて、活力ある働き方をするための改革を進める